

組織目標評価報告書（令和7年度）

部局名：教師教育開発センター		部局長名：菅 誠治
目 標		目標に対する達成状況(成果)及び新たに生じた課題等
⑤センター・機構等業務	関連する 中期計画の番号	
		センター・機構等業務における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
【全体】 1. 全学の教職課程認定学部の現状・課題について、令和6年度に先行実施した教育学部 の取組を踏まえ、各学部の自己点検評価の実施を支援し、大学全体の報告書に まとめて公表する。 2. センター教員が教育学域所属となったことを踏まえ、教員の選考・審査に関する基 準(研究業績、教育業績及び社会における活動実績など)の明確化を進めるとともに、 中期的な教員の配置計画を策定する。 3. センターの自己点検評価・内部質保証に関する評価内容・指標等(定量的な指標の 設定を含む)の検討・見直しを組織的に進め、令和8年度以降の体制・活動に反映させ る。 【教師教育開発部門】 1. 全学教職コア・カリキュラムを着実に実施する。 2. 教職課程認定学部の教員を対象とした全学教職課程FD研修会を実施する。 3. 全学教職課程を構成する授業科目と各課程認定学部の科目の重複調査を実施す る。 4. 全学教職コア・カリキュラムを、教員養成の質保証の観点から、有効性の検証を行 うとともに、改善に向けてさらなる研究開発を推進する。 5. 数値目標 ・全学教職課程の修了者数(学部・大学院:70名程度) ・教員採用試験受験者数(学部・大学院:20名程度) ・教員採用試験二次試験合格者数(学部・大学院:10名程度) 【教職支援部門】 1. 教職相談室利用学生に対する支援体制や指導内容の充実を図り、利用者の要望 に応える教職相談室運営を進める。 2. 岡山市教委や県教委と連携して、学校現場における実践力を養成する教師力養成 セミナーを円滑に実施し、その記録を相談室における指導にも活用する。 3. 数値的な目標として。 ・教職相談室利用者に相談室利用の有効性を問うアンケート(肯定的回答85%) ・教師力養成セミナー受講者に、自身の将来のための役立ち感を問うアンケート(肯 定的回答85%) 【教職コラボレーション部門】 1. 岡山県教育委員会、岡山市教育委員会、岡山大学の連携協力を調整・推進する中 で三者の互惠関係を構築し、地域教育課題を協働的に解決していく地域循環型社 会の実現を図る。 2. スクールボランティアビューローを通して、スクールボランティアの意義を周知する とともに情報を学生に提供し、教員としての資質・能力の向上を計画的に実施する。 【理数系教員養成事業部門】 1. 岡山県・岡山市教育委員会、小・中学校の教育研究会等と連携しながら、受講者 のニーズに寄り添い、時代の変化に対応できるCST養成プログラムを開発・実施する。 2. 理科教育推進のための研修会を実施し、若手教員を中心とする教員の指導力向上 や授業改善を支援するとともに、地域や学校におけるCSTの活動を伴走しながら、援 助する。		【全体】 1. 教育職員免許法施行規則に基づいた教職課程認定学部の自己点検評価について、策定した全学 共通の評価項目・指標等を用いて教育学部が実施した令和6年度の自己点検評価を支援するととも に、各課程認定学部における教職課程の自己点検評価の観点並びにチェックシートの見直しを行っ た。これについては、R08年度以降の本格実施に向け、センター運営委員会並びに教職課程運営委 員会で合意形成された。 2. センター教員が教育学域所属となったことを踏まえ、教育学部・教育学研究科と共同で教員の教育 業績、研究業績及び社会における活動実績に関する評価指標に則した教員の活動評価を実施した。 併せて「教授(特任)」も含めた中期的な教員の配置計画を策定した。 3. センターの自己点検評価・内部質保証に関する評価内容・指標等(定量的な指標の設定を含む) の検討・見直しを組織的に進めた。 【教師教育開発部門】 1. 「新入生対象 全学教職課程履修説明会(4/4・金)」「全学教職オリエンテーションⅠ(4/30・水、 5/2・金、5/14・水、5/16・金)」「同Ⅱ(10/21・火、10/29・水)」「同Ⅲ(2/13・金)」を実施した。さらに教 職論B(2年次)、教育実習基礎研究B(3年次)、教職実践演習B(4年次)を全学教職コア・カリキュラ ムとして着実に実施した。 2. 農学部(7/24・木)、理学部(11/26・水)、文学部(2/18・水)でFD研修会を実施した。 3. 全学教職課程と各課程認定学部の授業科目(特に必修科目)の重複調査を実施し、R08年度に向 けた調整を行い、「特別活動論B」と「総合的な学習の時間の指導法B」の開講曜日・時限を変更する こととした。 4. 全学教職コア・カリキュラムの科目修了ごとに受講者調査を行い、得られた結果を検証のうえ、セ ンター運営委員会及び全学教職課程運営委員会にて報告し、授業改善等への具体策を検討した。 5. 全学教職課程の修了者数は学部・大学院を合わせて84名、教員採用試験受験者数は19名、教員 採用試験二次試験合格者数は7名であった。いずれの数字も昨年度と全く同数であった。 【教職支援部門】 1.教員採用試験合格者による授業動画をさらに15本作成し、必要に応じ希望者が視聴できるように設 定した。相談室の予約が取りにくい期間に模擬授業の練習等を学生が自主的、協同的に行えるよう に講義室を予約・利用できる体制を整えた。その結果設定した218コマのうち158コマが活用された。 2.今年度から授業でなく単発のセミナーとして実施した教師力養成セミナーについては、新カリキュラ ムによる学生の多忙さや期日設定の影響等もあり参加者は減少した。R6(全7回188人)→R7(全6回 95人)期日設定や広報の方法を工夫したい。 3.教職相談室利用者アンケートの中で、相談室利用の有効性を問うアンケートには97%から肯定的な 回答があり、教師力養成セミナーについては100%だった。 【教職コラボレーション部門】 1. 岡山県教育委員会との連携協力会議(6月30日)、岡山市教育委員会との連携協力会議(7月14日)、 及び三者合同連携協力会議(11月18日)を開催し、「教員採用試験の今後の動向」「これからの時代を 担う教員に求められる資質と若手教員の状況」など喫緊の課題について協議するとともに、今年度の 各種連携協力事業の概要等を「連携協力事業研究報告書」にまとめた。 2. Moodle内の「スクールボランティアビューロー」等をおとして、学生に県内のスクールボランティアに 関する情報を適宜提供した。岡山市教育委員会と連携協力し、本学を会場に学校ボランティア支援シ ステム「VALEO」の研修・登録会を5月29日に実施した。(登録者数579名) 【理数系教員養成事業部門】 1. 学生CST養成プログラムでは、小学校コース7名(学部生7名)、中学校コース6名(学部生3名、教 職大学院生3名)を初級CSTとして認定した。また、現職CST養成プログラムでは、小学校コース受講 者2名、中学校コース受講者7名を中級CSTとして認定した。 2. 学生を対象としたプログラムでは、探究的な授業づくりに主眼を置き、教科書に掲載されている実 験器具を扱うことや模擬授業を行うことなどを通して、現場で通用する力の育成を目指した。一方、現 職教員を対象としたプログラムでは、授業改善や教材・資料の作成に取り組み、日常の授業に活用す るとともに、地域での研修会・研究会等でも活用した。 3. 教育委員会や教育研究会理科部会等と連携し、教育委員会主催の研修会や各地区の研修会、及 び校内研修会等において、指導・助言を18回実施した。

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5～1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。